ボーリング柱状図

調　査　名　平成16年度標津断層帯調査業務委託

事業・工事名　平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

ボーリング№	1	4								

シート№　1

ボーリング名	S04-Yo-4	調査位置	標津郡中標津町字養老牛					北緯	43° 34' 21.0"
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			調査期間	平成 16年 9月 29日 ～ 16年 10月 3日			東経	144° 44' 13.4"
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	主任技師	田邊　謹也	現場代理人	越谷　賢	コア鑑定者	渡辺　良夫・越谷　賢	ボーリング責任者	高橋　雅之
孔口標高	196.83m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
総掘進長	21.00m								

試錐機	鉱研0P-1	ハンマー落下用具	トンビ
エンジン	ヤンマーNFD-13	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	196.57	0.26	0.26		表土	黒褐			腐植土。草根混在。	
	196.08	0.49	0.75		火山灰質シルト質砂	暗褐灰			礫混り火山灰質砂が挟在。最下部は腐植土。	
1	195.83	0.25	1.00		軽石	灰褐～褐			逆級化。火山礫混在。(Km-1f)	
	194.93	0.90	1.90		火山灰質シルト質砂	褐灰			上部は葉理の発達した再堆積性の火山灰質砂。中部は火山灰?を挟在する腐植土。下部は軽石(主にMa-i由来)を混在する再堆積性の火山灰質シルト。	
2	194.51	0.42	2.32							
	194.43	0.08	2.40							
	194.09	0.34	2.74		軽石	橙灰～灰			角～亜角で径の大きな軽石(最大径50mm)が目立つ。(Ma-i)	
					火山灰	褐灰			葉理発達。細粒ガラス質。(Ma-j)	
3					火山灰質砂質シルト	灰褐			2.59～2.67m:Ma-kが挟在する腐植土。	
4	192.80	1.29	4.03		軽石	橙褐～黄褐灰			径5～30mm主体で、角～亜角礫（径2～10mm)が散在。最下部は逆級化。(Ma-l)	
	192.64	0.16	4.19							
5					火山灰砂質シルト	灰褐～褐			塊状、ローム質。	
	190.99	1.65	5.84		軽石混り火山灰	明褐灰～暗褐灰			塊状、不淘汰。軽石(径5～30mm)・角礫(径2～10mm)が散在する。フロー縁辺の非溶結部と考えられる。(Kpf1-IV)	
6					砂	明褐灰～褐灰			軽石が散在する中砂～粗砂。石英主体の結晶質で比較的淘汰良い。 6.36m付近:火山灰挟在。6.77～6.85m:火山灰質シルト挟在、10°傾斜。	9/30 6.50
	189.98	1.01	6.85							
7	189.63	0.35	7.20		火山灰質シルト	明橙灰～暗褐			やや有機質で炭質物混入。炭質葉理発達(10°傾斜)	
8	188.43	1.20	8.40		礫混り火山灰質シルト	暗褐灰			塊状。亜円～円礫(径2～20mm)が散在する。所々シルト質砂礫薄層が挟在。上部はやや有機質で炭質物が混在する。	
9	187.47	0.96	9.36		軽石凝灰岩	明褐灰			塊状。粘土化進む。風化礫(安山岩？)の亜角～亜円礫(径2～20mm)が散在。(幾品層) 8.50～8.70m:凝灰岩が挟在。	
	187.04	0.43	9.79							
10					凝灰岩	明褐灰			火山豆石が混在する。下位との境界は30°で傾斜。	
11	185.29	1.75	11.54		軽石凝灰岩	黄褐灰～明褐灰			おおむね塊状。風化礫(安山岩?)の亜角～亜円礫(径2～20mm)が散在する。 10.90m:葉理発達し30°で傾斜。	
	184.96	0.33	11.87		凝灰質砂岩	暗褐灰			葉理発達し中砂～砂質シルト粒径に正級化。葉理20°で傾斜。	
12	183.89	1.07	12.94		凝灰岩	明褐灰			おおむね塊状。固結度低い。 12.7～12.85m火山礫凝灰岩をブロック状に挟在。	
13					火山灰質シルト・火山灰質砂互層	明褐灰			葉理発達し正級化。未固結。火山灰質砂はシルト質砂粒径。葉理15～20°で傾斜。	
14	181.85	2.04	14.98							
15					玉石混りシルト質砂礫	黄褐灰～褐灰			亜角～円礫(径10～50mm)主体。礫種は暗灰～紫灰色安山岩、緑灰～明褐灰色凝灰岩。17.0m以深は切長5～10cmの安山岩の玉石の混在が目立つ。基質は火山灰質なシルト質砂。	
16										
17										
18										
19										10/13 20.05
20	176.93	4.92	19.90		火山灰質シルト	明褐～黄褐灰			葉理が弱く発達。 19.9～20.45m：火山灰質砂挟在。	
21	175.83	1.10	21.00							

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
0.11	S04-Yo-4-0.11	
0.26	S04-Yo-4-0.26	
0.37		
1.03	S04-Yo-4-1.03	
1.24	S04-Yo-4-1.24	
1.31		
2.33	S04-Yo-4-2.33	
2.51	S04-Yo-4-2.51	
2.57		
4.19	S04-Yo-4-4.19	
4.87		
5.17	S04-Yo-4-5.17	
5.78		
6.85	S04-Yo-4-6.85	
6.88		
6.95		

室内試験（　）：火山灰分析

掘進月日：9/29、9/30、10/1、10/2